



高橋宏幸の世界

6
町出身・絵本作家



一九二三年老方に生まれる。長年児童図書の編集にたずさわり、のち創作活動にはいる。文・絵・演技指導と幅広く活躍。「チロヌップのきつね」など数多くが海外でも出版。

童画「ふるさと ばんざい」
私は、小学生時代の全期間、旧老方小学校の校舎ですごしている。二畳の勉強部屋の窓枠を額に、八塩・鳥海の風景画は、いつも目の前にあった。朝夕眺めていると、鳥海山のむこうに、もう一人の自分がいるように思えてしかたがなかった。時には、ひょいと顔をのぞかせ「おいでおいで」をしたこともある。思いつきり背のびをしたら、むこうも、うんと背のびをした。中天から見おろすと、「おらほの郷」のすばらしさに、きつと「ばんざい」を絶叫したにちがいない。
私の生家、老方の高松家で呱呱の声をあげたという旧老方小学校は、高瀬小学校に変身した。この童画は、高瀬小学校創設五年記念に寄贈させていただいたもの。私の縁につながる生徒たちは、どんな気持ちで見ているだろうか。古を偲び、今日を思うと、感無量である。
(高橋・記)

2年ぶりの運動会にみんなハッスル



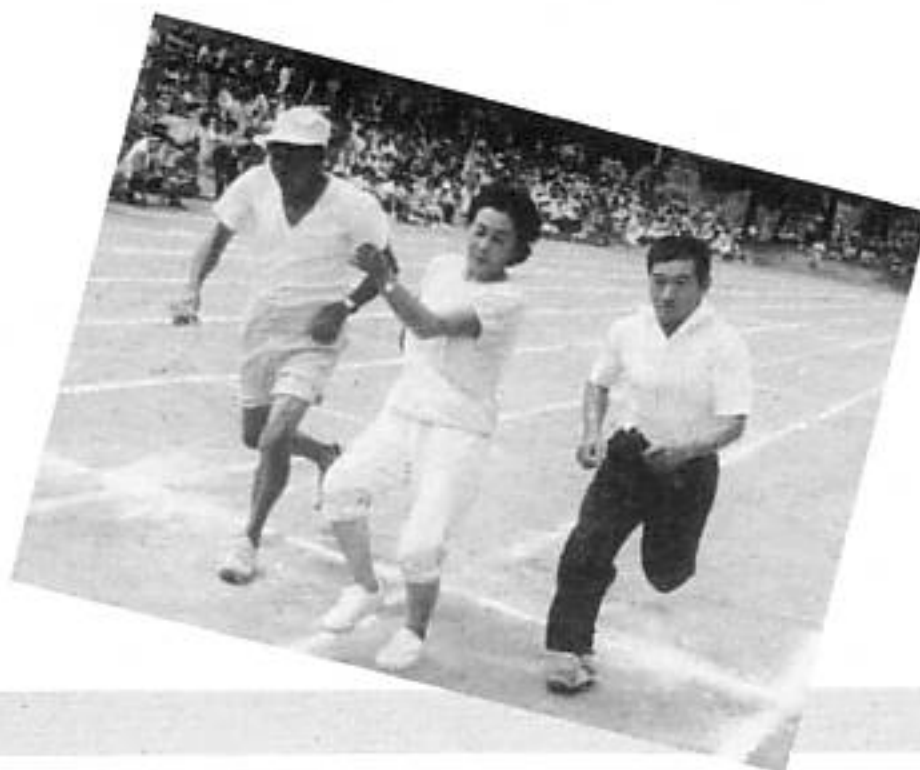
2年ぶりの町民運動会に3,000人余りの町民が参加、声援も一際大きく感じました

第二十二回町民運動会が八月二十六日台山グラウンドで、三十八自治会が参加して行われました。
一昨年、昨年とも雨にたたられ（昨年は中止）、今年は大丈夫と思いきや、昼近くになり雷雨が会場を襲撃、集まった三千人余りの町民は一斉に車や健康増進センターなどに避難しました。昼食後に再開したものの、種目終了間近に再び雨が襲撃、次第に強く降り自転車やバイクなどの人はズブぬれになって帰宅するという、今年もハプニング付きの運動会となりました。
しかし、予定されていた種目はすべて実施でき、つなひき、スウェーデンリレーのほか、新種目のクリーン作戦、背着リレーなど、自治会対抗種目を中心に二年ぶりの町民運動会を楽しみました。



接戦のスウェーデンリレー、一着に思わずガッツポーズ

第22回町民運動会
雨にイジメられながらも全種目実施



第22回町民運動会成績

(敬称略)

自治会対抗の部

〈総 合〉

- ①蔵 ②大琴 ③茂沢・祝沢 ④舟木 ⑤館合新田

〈つなひき〉

- ①蔵 ②大琴 ③館合新田 ④上里 ⑤湯出野、新処、時雨山、下通

〈スウェーデンリレー〉

- ①大琴 ②新町 ③舟木 ④田代 ⑤家の下 ⑥中通、石高、館合新田

〈クリーン作戦〉

- ①茂沢・祝沢 ②蔵 ③宿 ④舟木 ⑤袖山 ⑥上里

〈背着リレー〉

- ①茂沢・祝沢 ②蔵 ③大琴 ④高下屋 ⑤横小路 ⑥袖山

分館対抗の部

〈400m リレー・男子〉

- ①宿 ②玉米 ③老方

〈同・女子〉

- ①宿 ②蔵 ③法内

その他の種目

〈親子三代リレー〉

- ①大庭喜右エ門、喜一郎、朋和 (舟木)
②小野嘉吉、義雄、智樹 (中通)
③高橋典三、悦矢、宏幸 (久保)
④長谷山悦雄、喜悦、哲也 (石高)
⑤柴田浩、栄子、和佳子 (須郷田)
⑥小松フヨ、信行、祐介 (上通)

表彰式



〈1,000m・男子〉

- ①遠藤学 (高瀬小5年) ②遠藤和幸 (同6年) ③遠藤友和 (同)

〈同・女子〉

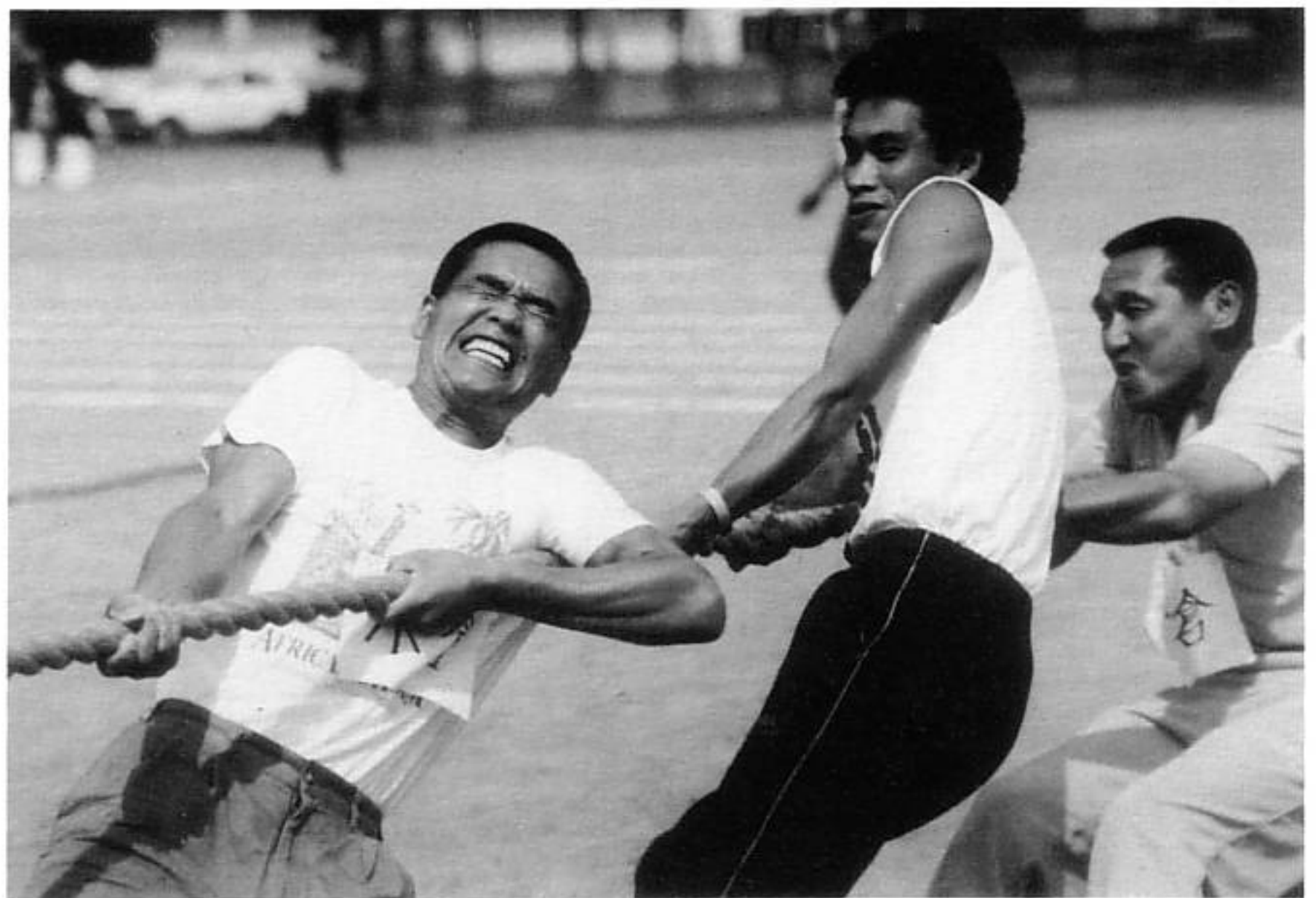
- ①大庭優子 (東中1年)
①大庭明子 (大琴小6年)

〈1,500m〉

- ①菊地智也 (山崎) ②遠藤正悦 (小倉)

〈砲丸投げ〉

- ①渡辺利宏 (田代) ②佐々木喜隆 (大琴) ③長谷山喜悦 (石高)



ハッスルの極めつけは「つなひき」。日ごろは見られない顔、が続出



こちらも新登場の「背着リレー」。ハッスルし過ぎて転倒者も続出 (右下写真)



「こんなカッコウで失礼します、新登場の「クリーン作戦」



「分館対抗リレー」。若いママさんたちも学生時代の俊足ぶりを発揮しハッスル



館合地区多目的 研修集会施設

「玉米会館」オープン



地区住民待望の

館合地区多目的研

修集会施設「玉米

会館」が館合字向

田地内に完成し、

八月三十日にオー

プンしました。建

物は鉄筋コンクリ

ート二階建、延床

面積約四百二十六

平方メートルで、一階に

は研修室、生活改

善実習室、談話ロ

ビー、図書コーナ

ー、二階には多目

的ホール、小会議

室が設けられてい

ます。また前庭はゲートボール

コートとしても利用できます。

この施設は、農村総合整備モ

デル事業で建設されたもので、

事業費は本体・電気・設備・外

構工事合わせて八千三百九十二

万三千六百円となっています。

このうち五〇%の約四千二百万

円が国庫補助金です。

館合地区では、これまで館合

共済団集会所や農協玉米支所を

借用し集会行事などを行ってき

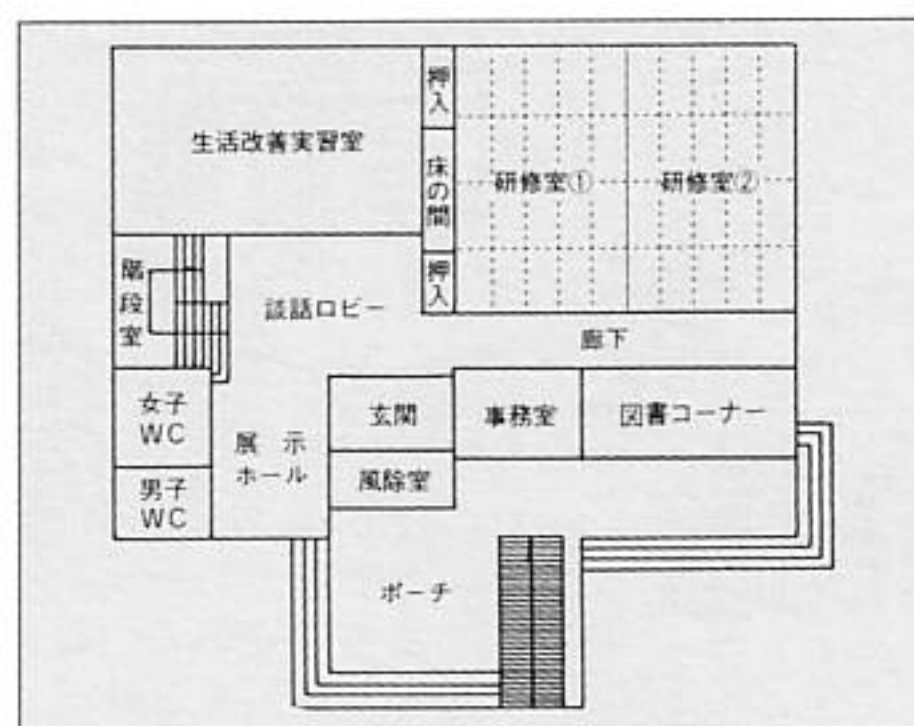
ましたが、収容人数が限られる

などの不便を強いられてしまし

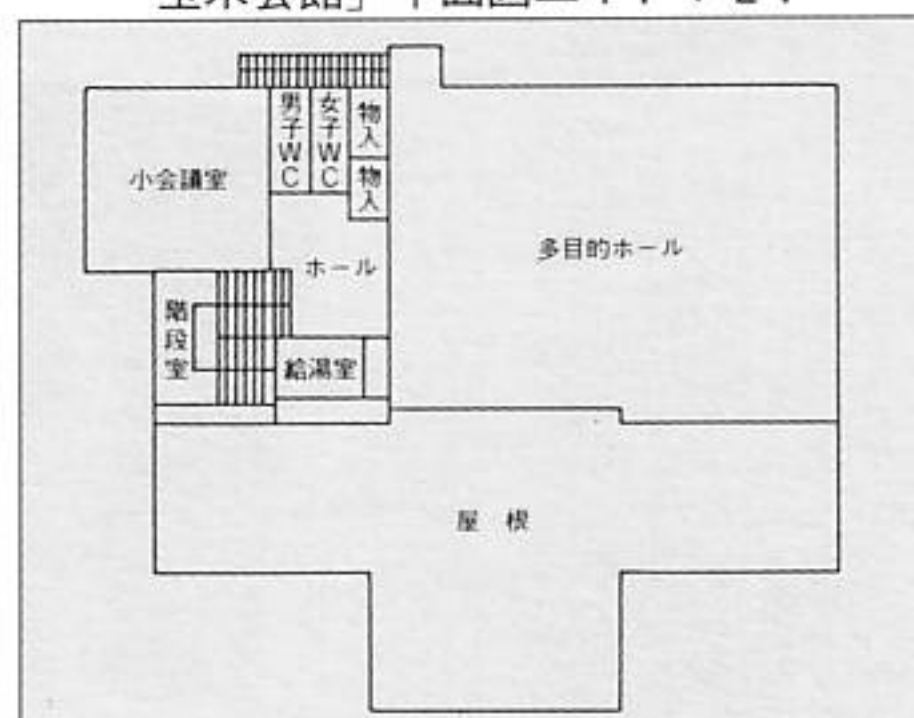
た。これからはそれも解消し、

特にコミュニティ活動の場とし

ての活用に期待が持たれます。



「玉米会館」平面図▲1F▼2F



ところで、玉米会館は、これまで旧小学区ごとに建てられてきた集会施設では一番最後の施設。しかし設備は最も近代的で、町内随一を誇る施設内容です。

玉米会館の完成で、町内各地域に集会施設が出来上がりましたが、この機会に、町内にはどんな集会施設があるのか、写真で見てみることにしました。

出そろった町内の集会施設

() は所在地 ①完成年月 ②延床面積 ③実施事業名

●八塩館(黒瀬)



①昭和53年12月 ②約355㎡
③第二次農業構造改善事業

●老方館(横小路)



①昭和62年12月 ②約264㎡
③(財)自治総合センター助成事業

●克雪管理センター(十二の前)



①昭和50年7月 ②約354㎡
③特別豪雪地帯管理事業

●大蔵館(蔵)



①昭和53年12月 ②約405㎡
③第二次農業構造改善事業

●高瀬館(大琴)



①昭和56年11月 ②約411㎡
③新農業構造改善事業

●袖山館(袖山)



①昭和62年5月 ②約258㎡
③農村総合整備モデル事業

国道107号大琴バイパス開通

町の大動脈である国道一〇七号の、大琴バイパスが八月一日に開通し、同八日に開通式が行われました。

昭和六十二年に着工の国道一〇七号・奥ヶ沢工区改良工事(宿・奥ヶ沢)のうち、宿バイパス(八百六十五メートル)が昨年完成、続いてこのほど大琴・舟木(翁台)間の千五百五十五メートルが完成したことから、県由利土木事務所が開通式を行ったものです。道路が唯一の交通網である本町にとっては、国道の整備は町づくりの最大の条件です。

宿・大琴バイパスの完成で本荘市まで所要時間が短縮されると共に、町のイメージも一変しました。残される舟木・本荘市山内間の早期完成に、より大きな願いが込められます。

開通式に県知事はじめ160人が出席

「国道一〇七号東由利町宿・大琴バイパス開通式」は八月八日有鄰館で行われ、これに先立ち大琴バイパス路上で、県知事、国・県議会議員ら百人が出席し神事、テープカットが行われました。また、大琴バイパスから宿バイパス終点までを、約三十台の車がパレード。中間地点で東由利中学校の吹奏楽部がこれを迎えると共に、沿道には開通を



160人が出席して行われた開通式

祝い大勢の地域住民が詰めかけ、旗を振って見送りました。開通式には工事関係者など百六十人が出席。佐々木県知事が「地域住民の強い要望と関係者各位のご努力により宿・大琴バイパスの開通を見る運びとなりました。残工区も順調な進捗で、早期完成に邁進している」と式辞を述べました。このあと国・県議会議員に続き、畠山町長がバイパス完成の喜びと国・県、用地関係者に対する感謝の祝辞を述べ、開通式を閉じました。

全体の完成は平成六年度

国道一〇七号・奥ヶ沢工区改良工事の計画延長は、東由利町宿・本荘市山内までの六千二百二十メートルで、東由利町側が四千八百六十五メートル、本荘市側が千二百五十五メートルです。

このうち宿・大琴バイパスの二千二百メートルがすでに完成、残る

橋梁部の計画延長は五百二十七メートル、トンネル部の計画延長は九百七十八メートルで、これらを含む奥ヶ沢工区の総事業費には、七十億円が見込まれています。この区間が完成すると、本荘市までの所要時間がこれまでより六分縮まるとされています。

県知事、国・県議会議員、畠山町長らによるテープカット



開通を祝い大勢の地域住民が沿道に詰めかけ、祝賀パレードを見送った



舟木・奥ヶ沢地区四千八百四十五メートルと本荘市山内地区の千二百五十五メートルは、二つのトンネルと五つの橋を含め、平成六年度までに完成する予定です。



トンネル掘削のため奥ヶ沢地内で進められている架橋工事

祝ご成人おめでとうございます



講師 太田章氏
「ネバリーギブアップ」
スボーツと私
太田章氏
（ロースカス五輪とソウル五輪）

町成人式

76人が大人の仲間入り

晴れて大人の仲間入りをした若者たちを祝う成人式が、八月十五日有鄰館で行われました。今年成人を迎えたのは昭和四十四年四月二日から四十五年四月一日までに生れた七十六人で、このうち成人式には五十六人が出席しました。

式典は午前九時に始まり、新人証書が、佐々木一徳さんと阿部美紀子さんに記念品のアルバムが畠山町長から贈られました。このあと畠山町長が「今年の成人者の半数は町内在住者と聞き、

とてもうれしい。若きパイオニアとして将来の町づくりに尽くされることを大いに期待する」と祝辞を、新成人を代表し小松明さん（畑村）が「成人式を機に初心に戻り、新たな気持ちで一歩一歩踏み締めて行きたい。そしてこの町をもっと住み良く、活気ある町に育んでいくために、一人でも多く町に残り、貢献できるような努力していきたい」と力強く誓いのことばを述べ、式典が閉じられました。

記念講演では、ソウルオリンピック銀メダリストで早稲田大

いよ」と言われることでした。

私が今度のバルセロナ五輪へのカムバックを決意したのは、旧友でアメリカの金メダリスト、シュルツとの再会です。「五輪のマークの意味を知っているか。あれは

演旨 講要



五輪メダリスト 太田章氏
ソウル五輪銀メダリスト 太田章氏

三十五歳で迎える四度目のオリンピックですが、これに挑戦すること自体が、自分にとってのロマンだと思っています。実際は行けなくてもいいんです。つまり、私は、人生には目標を持つことが大事で、そのための時間を大切に、少しずつ確実に目標に近付いていってほしいと言いたいのです。

ソウル五輪決勝はソ連のハダーツェフ選手と対戦。前日の試合で肋軟骨を骨折していた体は、終わって見たらアバラは折れているし、両ヒザの半月板は取れているしで、ボロボロ。監督やコーチには「そんな体で試合しなくても、もう銀メダルはもらえない。欠場してもいいよ」と言われていたのですが、自分としては日本で応援してくれる家族に最後まで諦めず頑張り抜く姿を見せたかったのです。試合が終わって一番心配したのは、日本人たちから「こんな試合しかできないんだ」たら出るんじゃないか

五大陸を意味するんだ。ロスもモスクワも三輪か四輪で、五輪ではない。だからオレはソウルに行く」のセリフを聞いたとき、「自分は果たして完全燃焼したのだろうか」と、いても立ってもいられない気

太田章氏「三三歳・秋田市出身・秋田商高からレスリングを始める・ロス五輪、ソウル五輪の銀メダリスト・早大専任講師

これまで二十年もの間、生きてくるには、やはり数多くの悩みや、トラブルが当然あったわけですが、その度に私たちは、多くの仲間たちとにささえられながら、一つ一つそれらを解決し、ここにいたっています。それをくり返す度に、私たちは、確実に少しずつ成長していったわけですが、思うと、仲間から幾つかのアドバイスをうけ、



渡辺 倫史さん

新成人意見発表から

取り入れながらも、最終的決断を下しているのは、やはりいつも自分自身だったし、そうでなくてはいけないんじゃないか、と私は思っています。簡単に言ってしまうと、自分自身の問題は、自分で結果を出すしかない、人によって形、考え方は様々ですが、そうすること、後、後にわだかまりを残すことなく、最も納得のできるやり方だということに尽きますし、私はそう信じています。考えてみれば、

自分が自分でいられる為に

渡辺 倫史さん
歯科技工士(下小路)

このことはごく当たり前のことなのです。でも、今この時期、もう一度そんな日常にあふれる「当たり前」を考え、思い直す良い機会なのではないでしょうか。そして私は、こうも思っています。人間には二

紙面の都合で原文の一部を割愛しています。

施設の充実、青年会の方々の町活性化への様々なイベントなど、それが独自に進進してしまうのでは

みんな、自分、そして町への思い

佐藤 文さん
学生(下通)

なく、いつも町民と一緒にたがりを持つて、町全体で躍動しようとしております。

今のタイプに分けられるんじゃないか。一つは、自分に素直で、やりたいことは実行に移すタイプと、周囲の意見に左右され、本当に自分のやりたいことや、考え方を失っているタイプですが、今のみなさんは、どちらに当てはまるのでしょうか。もちろん、どちらかが良くて、悪いかなどというわけではありませんが、私自身は、後者のタイプなのではないかと思っています。社会の波にもまれて

いる今だから、少しずつ、前者に傾きかけてきてはいるのかなとは思いますが、できれば、これからも、自分にとって、プラスになることを吸収し続け、バランスのとれた人格をつくりあげていくよう、心がけていくつもりです。

自分が自分でいられる為に……

佐藤 文さん



じなのではないでしょうか。

二十歳を過ぎた今、特に何が変わったという事はないのですが、今までの「まあなんとかやる」とよく考えもしない、いい加減な気持ちに少しずつ「大人にならなくては……」という気持ちがわりわりしきみ込んできたのは確かです。

表紙絵の感想文・絵を募集します。

小・中学生のみなさんへ
全員に高橋先生の
サイン入色紙を
プレゼント!

小・中学生のみなさん……「広報ひがしゆり」の、表紙の絵はどうですか?

広報の係では、表紙絵の感想文や感想画を募集することになりました。今までに六枚の絵が登場しましたが、どの絵でもいい

ですから、感じたことを作文や絵にして応募してください。

応募者全員に、絵の作者・高橋宏幸先生のサイン入り色紙をプレゼントします。さらに、優秀な作品(毎月二・三点)に、高橋先生の書いた絵本を賞品と

して差し上げます。

締め切りは毎月二十日、二月二十日まで募集します。

作文の長さは原稿用紙一、二枚、絵の規格は問いません。応募先は町役場の広報担当宛。どしどし応募してくださいね。



カメラトピックス

町のわだい

社会人野球大会は
宿チームが初優勝



▲降雨のなか熱戦を展開した、東由利メッツ対宿チームの決勝戦

第三十二回社会人野球大会が八月十五日から三日間、新しく完成した勤労者野球場と、台山グラウンドで開かれ、昨年より三チーム多い十八チームが参加し熱戦を展開しました。

最終日の十七日は朝から雨に見舞われましたが、さすがに勤労者野球場のグラウンドは水はけが良く、断続的に降り続いた雨もプレーにはほとんど影響ありませんでした。決勝には東由利メッツと宿チームが進出、宿チームが初優勝を飾りました。



ドライバーにあめを配り交通安全と呼び掛ける大琴地区児童

“あめ”配り交通安全運動

大琴バイパスが開通した八月一日の朝、大琴地区の児童五十人が、メッセージ付きの「交通安全あめ」を通勤途中のドライバーに配付、交通安全と呼び掛けました。

ドライバーたちは児童から「気をつけて運転してね」と、ハンドルの握り直し、慎重に車を走らせて行きました。

町農業近代化ゼミナール（小野武志会長）が七月三十一日、「ゼミほ場」（会員が作っている畑）を永慶保育園児に開放、園児たちはイモ掘りを体験しました。「ゼミほ場」は町内二保育園に毎年交互に開放、来年はみどり保育園児がイモ掘りを体験することになっています。

また、お盆前の八月十一日には、同ゼミが恒例の「青空市場」を矢島信用金庫前の広場に開設しました。「ゼミほ場」で会員自らが作ったスイカやトウモロコシなどを安値で即売したもので、今年も昼前にはほとんどが品切れとなるほどの売れ行きを見せ、利用者に喜ばれました。

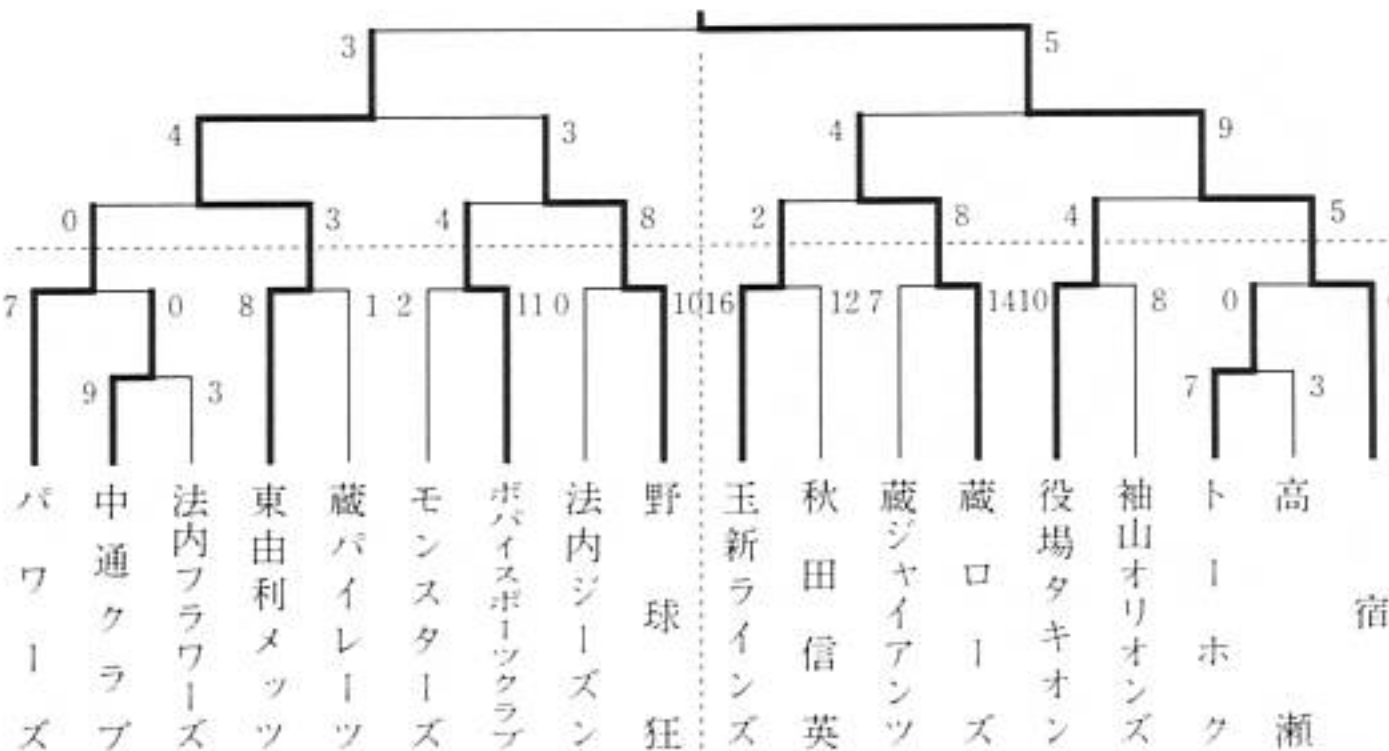
今年もがんばってます！「農近ゼミ」



▲「ゼミほ場」でイモ掘りを体験する永慶保育園児（上）と好評を博した「青空市場」（下）



社会人野球大会結果



〈最高殊勲選手賞〉・小野真一さん
〈敢闘選手賞〉・畑山敏則さん
・佐々木精人さん・佐藤清一さん



優勝した宿チームのみなさん

「朝野球」は野球狂が優勝

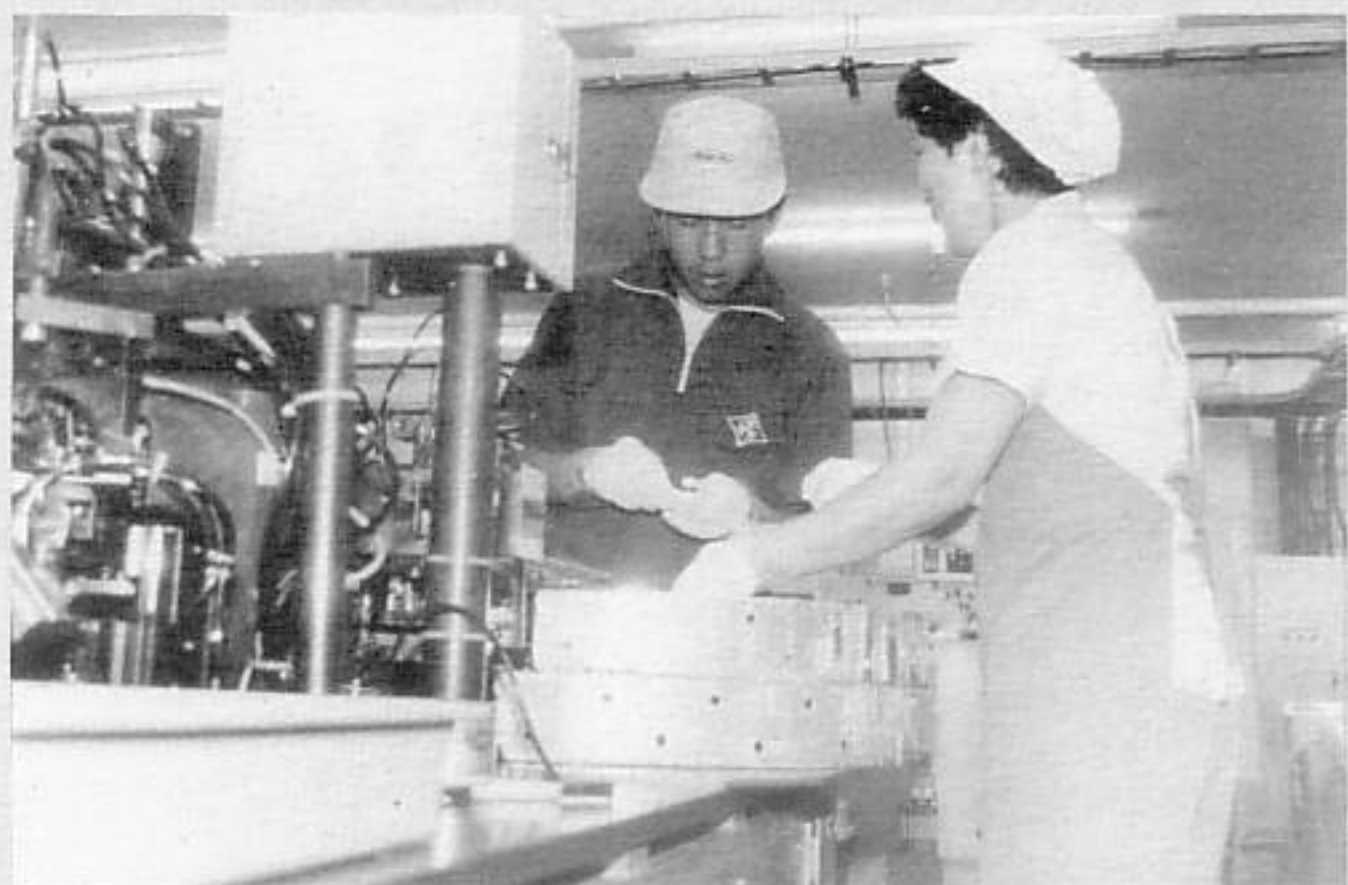
朝野球大会は七月三日から十五日まで、台山グラウンドで十

東中吹奏楽部が県大会で二度目の「金」

東由利中学校吹奏楽部（部員五一人）が、八月二十六日秋田市の県民会館で開かれた第三十二回全日本吹奏楽コンクール秋田県中央地区大会・中学校Cの部（二十五名までの編成）で、みごと「金賞」に輝きました。

同吹奏楽部は、八月十八日に同会場で開かれた中央地区大会で「金賞」の最優秀賞を受賞し、県大会の出場権を得ていたもので、県大会での「金賞」は昭和五十六年以来二度目になりました。

顧問の松橋隆先生は、「練習では一人も欠席することがなく、こうした部員一人ひとりの「やる気」が受賞に結びついたと思う」と話し、部員の努力を評価していました。おめでとうございました。



▲希望する事業所で「職場体験」をする生徒（「秋田信英（株）」）

東中二年生が「職場体験」

東由利中学校で八月七日、体験学習の一環として「職場体験」を行いました。生徒たちに、しっかりとした進路計画を持ち、夢や希望を実現するために努力する心を養ってもらうと実施したもので、体験者は二年生七十六人。協力した事業所は電気部品や縫製工場、農協など十二で、生徒たちは希望する事業所をグループで訪問、説明を受けたあと作業に取り掛かりました。

半日の「職場体験」を終えた生徒たちの反応は、「楽しかった」「つらかった」などまちまちでしたが、同校では「地域とのつながりに効果があり今後も継続したい」としています。また、河本正徳校長は「どの事業所も快く協力してくれたことに心から感謝を申し上げます」と話していました。



▲県大会で演奏する東由利中吹奏楽部（写真は阿部重雄さん撮影）

「津軽たんと節」歌い佐藤さん優勝

第十四回本荘市由利郡民謡グループ対抗歌合戦（七月二十八日・本荘市文化会館）に、本町の民謡同好会（遠藤真吉会長）から三人参加。「大将の部」で「津軽たんと節」を歌った佐藤春一さん（地下の沢）が見事優勝を果たしました。また、総合では第3位に入賞しました。おめでとうございました。



優勝した佐藤さん（中央）を囲み町民謡同好会のみなさん



大会記録に僅少差 小野くんが1000mで優勝

（財）日本陸上競技連盟主催の第六回全国少年少女リレー競技大会・県予選大会が七月二十九日県営陸上競技場（雄和町）で開かれ、本町から大庭明子さん（大琴小六年・女子八〇〇m）、工藤小百合さん（高瀬小同・女子走幅跳）、小野智樹くん（同・男子一〇〇〇m）の三人が出場、このうち小野くんが大会記録に迫る好タイムで見事優勝を果たしました。

小野くんの記録は二分五十八秒七で、大会記録は昭和六十三年に本県の選手が出した五十一秒八。その差は一秒二と僅少で、関係者は「あわや大会新記録」の好タイムに驚ろかさせられました。

しかし、この男子一〇〇〇mは「全国種目」になっておらず、国立競技場（東京）で八月に開かれた「全国大会」に出場できなかったことが、とても悔まれます。



▶小野 智樹くん

球狂とポパイスポーツクラブが決勝に進出、野球狂が優勝しました。

さよなら“夏”'90

暑かった今年の夏も、ようやく過ぎ去り、さわやかな風と共に、みのりの秋がやってきました。

ところで、今年も町内のいたるところで、さまざまな夏まつり、行事が行われ、町ににぎわいを運び込みました。

そんな今年の夏まつり、行事にスポットをあて、スナップ写真を載せてみました。



こちらは館合の「鹿島神社祭典」。地区の子どもたちによる囃子や、館合新田の獅子舞い・餅つき舞い（写真）、地下の沢の番楽などを奉納し、無病息災や五穀豊じょうなどを祈りました。（8月19日）

何百年かの伝統を誇る新町の「鹿島神社祭典」。今年から自治会の熱意によって「代名行列」（写真）が復活、代名にふんした佐藤昭一自治会長を先頭に、地区内をくねり歩きました。（八月十九日）



昨年が続いて行われた「日本一大いちようまつり」。大イチョウの木陰で神事を行ったほか、今年も町出身歌手の歌謡ショーを開催、新しく「子どもみこし」（写真）も登場しました（八月十六日）



開苑五年目を迎えた「東光苑」恒例の「夏まつり」。地域住民も大勢詰め掛け、演芸発表会や、打ち上げ花火を楽しみました。（八月二日）

秋の全国交通安全運動

ルールとマナーを再点検

重点目標は三点

今年の「秋の全国交通安全運動」の重点目標は、①「若年運転者による無謀運転の防止」、②「シートベルト・ヘルメットの正しい着用の徹底」、③「違法駐車・締め出し」の三点です。

①無謀運転は命とり

運転は、車線を守り、車間距離を十分とって、交差点などでは安全確認をきちんと行い、危険な運転、迷惑な運転はしないことです。

若者に目立ちます、スピードにおぼれての無謀運転。

②シートベルト・ヘルメットは安全への命綱

自動車事故で亡くなった人の七割以上がシートベルトをしていなかった人です。していれば、かなりの人が命は助かったといわれています。

“車に乗ったらシートベルト、皆が正しく締めてから発車する”を習慣付けたいものです。

二輪車は、バランスを崩しやすく、転倒しやすい乗物です。

町長随想

「揺りかごから墓場まで」……福祉の代名詞のようなことば。いま、福祉社会の諸施策は急テンポに進んでいる。

母子福祉・児童福祉・社会福祉・

老人福祉……。この世に生を享け、生涯を終えるまで、その生存過程のすべての段階で福祉の恩恵をうけずに暮らせない時代となった。

民生安定が窮極の行政目的であることを考えると、あたり前とも言

盆踊り大会も各地で開催。特に、老方地区では上通の路上で開催（写真）、帰省者など大勢が参加しました。



「第六回ふるさと交流」は、今年は八塩いこいの森で開催。帰省者を中心に六十人余りが参加し、自然を満喫したあとキャンプ広場で交流会（写真）を行い、ふれあいを深めました。（八月十五日）



こちらは八塩小学校恒例の「七夕集会」。途中から雨に見舞われましたが、メインの花火大会までには雨は上がり、八塩小の夏の夜を彩りました。（八月十日）



ヘルメットも、かぶっているだけでは無意味。正しく着用して初めて効果があります。二輪車の死亡事故の約五七％は頭部損傷や顔面損傷によるものです。

「ヘルメットを正しく着用して安全運転を——」

③違法駐車を締め出そう！

「自分だけは」が、いつのまにか「多くが」になり、「皆が」困っています。路上駐車が円滑な交通を阻害し、交通事故をも招くなど、いかに迷惑を及ぼしているかは、周知のとおりです。

車をもつなら継続して保管場所を確保しましょう。違法駐車は絶対やめましょう。

「しない——させない——迷惑駐車」

える。

さて、福祉論議はともかく、いつも考えさせられることのひとつに——人間終焉にあたり、平等にその個々の人間の人格を重んじた

な掟とみるべきであろう。

人の生涯は、それぞれ生き方や社会的立場が違って、憲法に保障されているように基本的人権を享有し、生命、自由、権利とともに

のための人生最後の儀式的場はどこか……。それは、斎場であると

考えられる。これまでの斎場は狭い上、設備が不十分で、しかも焼却炉が

「やすらぎ苑」竣工に思う

措置——人間尊厳の重みを尊重することについての措置——これが行政の責任ではないのだろうか！……ということを強く考えさせられる。人間平等と人格の尊厳は、人の出生から死に至るまでの厳粛

に個人として最大限に尊重されなければならぬものである。そして、人間としてその終焉を迎えた時には、人間尊厳の立場から平等であるので、共通の安らぎの場を

与えるべきであろう。その安らぎふさわしい、尊厳と品位を保ち、

深い悲しみに包まれたご遺族や参列者に対し「やすらぎ」の配慮をしながら設計されたもので、外装はできるだけ明るく、柔らかに、和らぎ感覚を与えるように配慮し、内部は重厚・荘重な中にも清潔感と品性、風格のあるデザイン・色調としたつもりである。

願わくば、この施設が「やすらぎ苑」の名にふさわしい、心のやすらぎを大切にしたい運営であるよう、心からお祈りしたいものである……合掌。

（町長・畠山亮二郎）

臨時議会

青少年交流施設建設費を補正

補正額は
1億800万円

第七回町議会臨時会が八月二十二日に開かれ、「青少年交流施設建設事業」の補正予算案を原案どおり可決しました。

同事業は、地方交付税のうち「地域づくり推進事業」（旧・ふるさと創生事業）として一億八百万円が交付されたことに伴



「青少年交流施設」が建設される八塩いこいの森（写真左はしにあるのが「八塩山麓荘」）

自治宝くじ受託事業収入の一部を地域活動等に助成する（財）自治総合センターのコミュニティ助成事業で、このほど館合地域自治振興会（佐藤力代表）に総額二百万円が助成されました。

同振興会では、地域の祭典用備品として小太鼓三個、祭りサングレーツ一式、絆天四十五着のほか、ゲートボールセット二組、屋外用ベンチ四台、ローラーチェア一台、放送関連機器と



宝くじの助成事業で整備した「祭りサインゲート」

自治宝くじ助成事業で館合地域自治振興会が祭典用備品を整備

ビデオ関連機器一式を整備、活発なコミュニティ活動に努めることにしています。

い実施するもので、事業費は六千八百八十万円。残る三千九百二十万円は「地域振興基金」に積立てるものです。

青少年交流施設は、町議会との協議の結果八塩いこいの森の「八塩山麓荘」跡地に建設する

ことが内定しており、九月中旬に着工となる見込みです。

同施設については広報十月号で詳しくお知らせします。

今回の補正で一般会計歳入歳出予算の総額は三十億八千五百九十六万二千円となりました。

佐藤さんの厚意で畜産振興指導車を購入

今年五月、本町祝沢出身で大湯村に住む佐藤鉄之助さん（八二歳）から、「東由利町の畜産振興に役立ててください」と五十万円の寄附金が町に届けられました。（「広報ひがしゆり」七月号でご紹介させていただきました）

町では、佐藤さんのご意志に

応えることができるよう寄附金の使い道を検討した結果、このお金を元に「畜産振興指導車」を購入することに決め、このほど車が役場に届きました。

車は濃紺色の軽自動車（六六〇cc）で、現在、町畜産振興指導員の鈴木龍太郎先生が、畜産農家への指導などにフルに活用



佐藤鉄之助さん

しています。

佐藤さん、どうもありがとうございます。



佐藤さんのご厚意を元に購入した畜産振興指導車と鈴木町畜産振興指導員

東由利の文芸

ゆりかご句会（八月会から）

友の逝き百万遍の夏の果

小松慶次郎（高戸屋）

田も畑も序々に稔りて夏果ぬ

小笠原トミ（蔵新田）

紙コップ風にころがり夏の果

遠藤モトミ（新処）

甲子園土を土産の夏の果

小野貞子（蔵新田）

うらなりの残る畠や夏の果て

鈴木徳蔵（舟木）

客絶えて高原宿や夏惜しむ

佐藤正義（湯出野）

葉がくれの実一つ名残の夏果て

遠藤トミ子（小倉）

一村をダム湖に沈め夏果て

小笠原亮子（蔵新田）

夏果てる鹿島流しのもどり列

小松メサ子（下小路）

夏痩せや粗食に足りる昼の主婦

鈴木要（沼）

夏痩せて結びし帯の端長し

高橋ヒデ子（横渡）

夏負けを案じ娘からの届け品

菊地常作（湯出野）

水足りて稲穂ふくらみ夏終わる

阿部義直（沼）

山の湯に朝覚め寒く夏果てる

小松徳蔵（湯出野）

これはラジオ放送「FMあきた」の「トーク&トーク」という番組で昨年放送されたもので、六回シリーズで掲載しています。

農村生活を豊かに

◆(アナウンサー) 外に向かつては「東由利町讃歌」を歌ってますけれど、内ではやはり「危機感」を持つてゐるんですね。私たちは外野で、何がかんと言つてますけれど、町長ともなれば、具体的にそれを解決していかなければならない。はたで考えるほど楽な商売じゃないね。

◆(石川嘉明) どんな商売も楽じゃないでしょうが、町の舵取ですからね。町民の負託に答えなければならぬ。町全体の浮き沈みに拘わることで、事は重大ですよ。

◆その舵取が「信英グループ」の誘致ということになりますか。

◆私はそう見えています。

◆畠山さんの考えは、「出稼ぎ」の解消と「所得」でしょう。しかも、東由利町は「農村」ですよ。ですから、彼の頭の中には、常に「農村生活をいかにして豊かにするか」ということがあるんですよ。いつかその考え方を聞いたことがあるんです。彼はこんなことを言っていた。

「稲作プラス畜産、プラス野菜、プラス給料(サラリー)、イコール豊かな農村生活」

こんな図式を描いているんですね。

◆はあ。その「給料」の部分、それが「企業誘致」の背景になっているんですね。

◆まさにその通りです。

ですから、町民に「サラリー」を保障する「信英グループ」の去就は、彼の理想を実現出来るか、出来ないか、一大勝負となるんです。この勝負に負けたら後は終わり。意地でも勝たなければならなくなつた訳ですよ。

◆もし「信英グループ」が駄目だとなつたら

◆町長を辞めたかもしれない。少なくとも「公約」に対する「ケジメ」はつけたと思う。町は小さいかも知れないけれど、彼にはそういう浪花節があるんです。

奈落の底へ

◆さて、畠山町長の「信英グループ」に賭ける意気込みは分かりました。で、乗り込んで行ったんですか。

◆本社へね。「信英グループ」の本社は、長野県伊那市にあるんです。登内英夫社長に「何としてでも、東由利町に来て

欲しい。私は町長一年生。政治力はない。しかし熱意だけは、誰にも負けない」

と資料を広げて説明したんですね。一回、二回、三回と足を運んだようですよ。

◆で、決つたんですか。

◆そう簡単には行かなかったようです。「信英グループ」にとつても、会社の浮き沈みに拘わることで、会社の浮き沈みに拘わることに乗り込んで、調査してみよう」というところまでいったんです。

◆その結果、合格ですか。

◆そう。第一段階では「合格」。

ジャーナリストから見た東由利シリーズ3

企業が町を活性化に

フリージャーナリスト 石川 嘉明

まあ、重役たちの調査結果による、候補順位は「トップ」だったようです。ですから、町長は小躍りして喜んだんですよ。「自分の誠意が通じた」と思ったと言っていましたから。

そして最終段階。登内社長が東由利町に乗り込んで来たんですね。その結果は、意外や意外、町長の予想だになかったものなんです。「東由利町では駄目だ。〇〇町にしよう」というものだったんです。「不合格」です。

◆理由は何かだったんですか。

◆東由利町の規模では「小さい。狭い」と言うものだったんです。重役たちの考えている規模と、社長の考えている規模に、大きなズレがあったんですよ。社長の構想は、かなり大規模なものだったんですね。まさに「奈落の底」に突き落とされたと言つていいんじゃないでしょうか。町長は「目の前が真っ暗」になった初めての経験だと言っていました。

計画変更と心中の覚悟

◆企業の厳しさといったものを感じますね。で、逆転決定には、何かあったんですか。

◆そこなんです。「足」が「政治」を越えたというの。」「誠意」が人を助けるというの。」「

実は、重役たちが、それまで畠山町長の取つてきた行動、誠意というものを大きく評価していたんです。」「天は自ら助くるものを助く」ですよ。彼の真情を察した重役たちが

「畠山さん、社長はこれからシンガポールへ行く。帰つて来るまで、狭いという条件の変更は出来ないものでしょうか」と好意的に言ってくれたんですね。

◆有り難いものですね。

◆そうなんです。私が強調したのは、そういうことなんです。

普通なら、社長が「駄目だ」といったら、大体、駄目なんです。それを「条件の変更が出来たら、貴方のためにもう一肌、脱いであげますよ」と言ってくれているんですからね。

これは、相当、町長を評価していたということなんです。まあ、そう言わしめるまで頑張つていたということじゃないですか。

◆計画の変更はスナリいったんですか。

◆そうでもないらしいね。「計画の変更ということは、新しい「団地計画の造成」ですからね。新しく民有地を買わなければならぬ」ということでしょう。

困難は承知していたけれど、「ありがとうございます。計画の変更をいたしましょう」と、即座に決意したということです。

◆もし、議会がこれを拒否したら、町長の責任問題ですよ。

◆そうなんです。ですから、この時、もし議会が拒否したら、かなりの覚悟を固めていたんですよ。

町長に就任して間もない大事業と、心中するつもりだったんじゃないでしょうか。

(次号に続く)



カガク

小松 幸月さん(23歳)
寺田・東由利町役場勤務



小さい頃から、自分で考えたり行動する子で、今でもかなりそれが残っているように思います。いつも考えている時が多いから、周囲には割とぼんやりしていると思われるのかもしれませんが、趣味は音楽と本と映画と散策でしょうか。音楽は朝から晩まで聴いていますし、本もひまさえあれば

ば読んでいますし、映画は気に入ると何度でも見るし、あちこち散策しては自分の好きな場所を発見するし、という具合です。

人間にとって大切なのは死ぬまでどれだけの事に感動したかという事だと思えますから。それさえあればどんな事でものりきれれると思います。

今したい事は自由になる事。

尊敬する人は音楽家坂本龍一と作家日野啓三の二名、あと好きなタイプは女優の富田靖子です。将来の夢は、自分に妥協したつまらない人間にならない事です。

次は畠山和子さん(上通・21歳)にリレーします。

今日は全校でさつまいもや田うえをやることになっています。

「こんどはかおりさんのお父さんの話しです」と教頭先生がいました。わたしは、きょう年やったので、ほとんど聞かないで、おねえちゃんの田うえばかりを見てしまいました。

いよいよビニールの中に、さつまいもを植えなくてははいけないときです。ビニールの中は、とってもあたたかかったです。あなをほるとき、手がまっくらになりました。かおりさんのお父さんに教えてもらいながら、植えました。自分のなえを植えおわったところ先生が、

さつまいも植え

木島さとみさん(大琴小一年)



「一年生に教えてください」といいました。

わたしは、あの子に教えてやろう

と思って、

「こっちへおいで、教えてあげる」と一年生を呼びました。

「はい」

あまり聞かえないへんじでした。

でも、とてもうれしかったです。

「なえはね、高だて山の方に向けてるんだよ」

と言うと、小さくうなずきました。

あなをほるとき、たいくつさせないように、

「よいしょ、よいしょ」

と声をかけました。

楽しいも植えでした。

ちびっこギヤラソー

作文編

保健婦の快適タイム

「食中毒に要注意」

残暑厳しい九月は、食中毒の要注意期。厚生省の統計によると、八月に次いで二番目に多くなっています。

食中毒の原因は、大半が細菌性食中毒。食品では、魚介類による食中毒がもっとも多くなっています。真夏には、食中毒が心配だからとひかえていた刺身身などのなま物も、秋風が立ち始めると、そ



れほど気にせず食卓にのせるといふところにも原因があるようです。

行楽シーズンに入り、弁当など

による中毒が増えるのもこの時期

の特徴です。弁当には、なま物は

入れないこと。おにぎりは傷のある手で握らないこと。また、フキン、まな板はいつも清潔に保ち、

冷蔵庫の整理をきちんと行うこと

などに心がけ、暑さで抵抗力が落ちているこの時期、食中毒にかからないように注意したいものです。

(保健婦・高橋鈴子)

「職場体験」に行つて

八月七日、東邦製作所へ「職場体験」に行つてきました。

始めに社長さんの説明を聞いてから、工場の中を見学しました。工場の中では水道管のつぎてや印刷機械の部品などを作っていました。それから実際に体験させてもらいました。私を含めた三人の女子は、基になる機械から箱詰めするまでの仕事を体験させてもらいました。手作業でやる細かい仕事が多かったけれど、私たちが任さ

随想スッポット

私の出番



東由利中2年A組
畠山 明美さん

れた仕事は簡単な仕事ばかりだったので、楽しくやれました。

時間は三時間だったので、仕事の内容は分からなかったけれど、工場の人たちは汗を流しながら、みんな協力して働いており、見習わなければ……と思いました。

この体験は、将来働かなければならない私たちにとって良い経験になったと思います。これからはその時のために、健康面でも体力面でも力をつけるために、がんばりたいと思います。

教師のつぶやき

せんせい登場



毎日のすべてが勉強です

大琴小学校・須藤 真紀先生

ここ大琴小学校に勤務して早くも五ヵ月を経過しました。美しい自然に囲まれた東由利町に赴任した私は、最初、仕事はもちろんのこと地域のこともわからず、とまどってばかりいたのですが、職場や地域の温かいはげましによって、少しずつ慣れてきました。

私の本務は学校事務ですが、休み時間にはできるだけ子どもたちと接するように心がけています。時々、子どもたちから声をかけられると、つい一緒に遊んだりして、毎日楽しい日々を送っています。

今、本舎の周囲は、たくさんのお花々で飾られています。燃えるようなサルビアの深紅は私の心をなごませてくれます。

すばらしい東由利、人情の深い大琴小学校で、事務職員としてのスタートをきることができたことを幸せに思います。

私にとって、毎日のすべてが勉強です。これからいろいろなことを学んで、一日も早く一人前になれるように努力したいと思っています。



野分

芭蕉 野分してたらいに雨を聞く夜かな——これは雨漏りがして、たらいに雨を受ける光景をうたった芭蕉の句です。しかし、いまではこうした様子はほとんどみられなくなりました。

野分は、秋から初冬にかけて吹く台風のことです。台風のあとの

荒涼とした風景の意味に、使われることもあるようです。「野分だつ」という言葉もあります。

それにしても、「野分」をどう読むかですが、のわき、のわけ、どちらも辞書に載っています。NHK編の『新用字用語辞典』には、「のわき」とあって、「野分けとも」となっています。語源については、野の草を分けて吹く風というのが一般的です。

いずれにしても野分は、現在は日常の言葉として使われることはほとんどなく、俳句の季語などとして残っています。

ふるさとを想う

6

夜鷹の鳴き声

語り・鈴木孝弥さん（沼）
文と絵・石渡力造



むかしむかし、沼の村が湖のような沼だった頃、沼の辺にとらこという美しい働き者の娘が住んでおり、この沼を、だれいうとなくとらこ沼と呼んでおった。

年ごろのとらこには、方々から嫁もらいにくるけどよ。中でも九郎湯の九郎という若い男は、熱心にとらこに通うようになったけど。

そうしたら今度は、八郎湯に住む八郎という若者が、ぜひ自分の嫁にと、通って来るようになった。

どよ。さあ、九郎は足しげく通う相手の八郎を心よく思いません。

悪思案の八郎は、村人たちを頼んで追い出してやろうと考え、弓矢を持って村人たちと一諸に待ち伏せすることになった。

暗い晩、九郎は櫓の陰に隠れていて、「みんなだあ、俺が夜鷹の鳴き声のまねをするから、足音の

する方に矢を放せ……」と村人に合図の手くばりをしたのでおの。

村人たちは、八郎の足音と夜鷹の鳴き声の合図をいまかきまかと耳を澄まして待っていたら、間もなく「……キョキョウ……キョキョウ」と夜鷹の鳴き声がした。

「それっ」と村人たちは一斉に、弓矢を放した。

そのとき「ウーーン」と呻き声がするので、明りを灯して見たら何んと、張本人の九郎がぼったりと倒れていた。

そしたらよ、突然、九郎が隠れていた櫓の枝から、ばたばたとほんものの夜鷹が飛び去っていったけど。それから九郎湯も、とらこ沼もなくなり、八郎湯だけが残った。

とっぴんからりん山しよの実。

ふるさとを想う

28

千葉市桜木町三四〇—九
小野 功さん（53歳・宿出身）



残暑厳しい折柄、皆々様元気で過ごしてでしょうか。

私は昭和二十九年に上京し、畳業に就いて以来これまでの間、千葉に居を構えるなど様々なことがありましたが、いつでも忘れることがなかったのは、ふるさと東

由利”のことでした。どんなに時代が変わろうとも、ふるさとからの便りは私をなぐさめ、時には励ましてくれるものでした。

そんな私ですが、先日催された「ふるさと交流」に初めて参加させてもらいました。朝九時前に受付が始まり、あつと言う間に予想定員を大幅にオーバー、始まる前から活気に満ちた雰囲気でした。

その後、イモ掘りに始まり、ボツメキの湧き水で冷したスイカと水のおいしいこと。小生、この余り水をどうにか（商品）できないものか」と思った次第です。

そして……あの本物の大自然の中で飲んだビールのうまかったこと……。役場はじめ、ふるさとの皆様のお陰でとても素晴らしい思い出が出来ました。ありがとうございます。

ス ル ボ
(ユリ科)

文・写真 小松忠正



ツルボ、サンダイガサともいわれます。原野に普通に見られる多年生の草で、鱗茎と根は小さいタマネギのような形です。葉はニラの葉の先を少し太くしたような倒披針形で中が凹んで二枚相對し、春と秋に二回出ます。(春の葉は

夏に枯れます) 花は葉の中心から出た花柱に淡紫色の美化を穂状につけます。夏草の茂みの中に、ひっそりと可憐に咲くこの草を見つけると、頬ずりしたくなるようないじらしさを感じます。スルボの語源はよくわかっていません。

9月 (7/1~7/31)
町の三二統計

- 人口 () は前月比
- ・男 2,839人(△6)
- ・女 2,992人(△4)
- ・計 5,831人(△10)
- 世帯数 1,422戸(△2)

() は1月からの累計

- 出生3人(27) ●死亡12人(40)
- 転入2人(38) ●転出4人(83)

- 火災出動……0件(2)
- 救急出動……14件(67)
- 交通事故……0件(7)
 - ・死者……0人(0)
 - ・傷者……0人(13)
- 飲酒運転……0人(2)
- 酒気帯び……0人(2)

9町民カレンダー

お年寄りにいたわりを
老人福祉週間8/15~21

- 3・いきいき教室(9時30分~老方館)
- 5・2歳児健診(13時~有鄰館)
- 6・心配ごと相談(13時~明楽荘)
- 7・定例町議会(予定)
- 10~17・胃検診(追加)
- 16・山村に生きる農業シンポジウム(9時30分~受付・有鄰館)
- 18・大腸がん検診(追加)

秋の交通安全運動

8月21日~31日

- 27・交通安全町民大会(健康増進センター※パレード10時~)
- 27、28・粗大ごみ収集
- 第2、第4土曜日は役場が休みです

“山村に生きる農業”
シンポジウム

とき 9月16日(日)

ところ 有鄰館

内容 ▼基調講演(演題「新しい農業時代の戦略」・講師「秋田県農協五連会長佐藤秀一氏」)

▼フォーラム(テーマ「山村農業の活路を考える」・パネリスト「東北工業大学教授山田晴義氏ほか」)

- 戸籍だより (7/21~8/20届出・敬称略)
- お誕生おめでとう
 - 7/2 佐藤 和貴(吉和・長男)中通
 - 7/23 小笠原千尋(順恵・長女)土場沢
 - 7/28 畠山 信也(清伸・長男)下通
 - 8/1 畠山 遼(勉・長男)大吹川
 - 8/10 畑山 千穂(悦也・二女)館新田
 - ご結婚おめでとう
 - 8/2 大日向 治(宮ノ前・敦子)本莊市
 - 8/3 阿曾 惣一(宇戸坂・栄子)本莊市
 - ごめい福をお祈りいたします
 - 7/21 藤市郎平(85・眞市祖父)高村
 - 7/21 佐藤トミサ(82・幸雄・母)蔵
 - 7/22 佐藤 リツ(56・徳一郎・妻)葎沢
 - 7/22 高橋 ノヲ(76・信吉・母)智者鶴
 - 7/22 佐藤 武治(77・本人)東光苑
 - 7/21 遠藤モトミ(69・吉蔵・妻)新処
 - 7/21 大沼秀二郎(81・ノブヨ・夫)蔵新田
 - 8/1 小野 弥一(46・充子・夫)須郷田

マイ スケッチ

「こうふくの橋」渡りぞめ
畠山 栄雄さん(茂沢)



今年5月、八塩いこいの森につり橋が完成。その名は「こうふくの橋」。ピカピカの一年生が、お父さんやお母さんたちと幸せの願いをこめ渡りぞめました。

▼行事の多い八月。実働日数を数えてみたら十五日——このうち広報の編集に向けた日数は五日。取材も含め一日平均三・五頁のハードスケジュールの末、やっとのことでの原稿にたどりつきました。まずは一息……▼一息ついたところで、おわびです。先月号の新人者の紹介で舟木の木島弘威さんは大庭弘威さんの誤りでした。また、数ある誤

編集室から

字の中で、町民の方から「官報賞」が指摘をうけました。正しくは「観峯賞」のようです。ほかにも誤字があったかと思いますが暑さに免じてお許しください。▼八月は行事が多く紙面の都合で紹介しかねたものもあります。また、東中吹奏楽部の記事は、もっと詳しく載せるべきでしたが、時間の都合で粗末な扱いになったことを、おわびします。